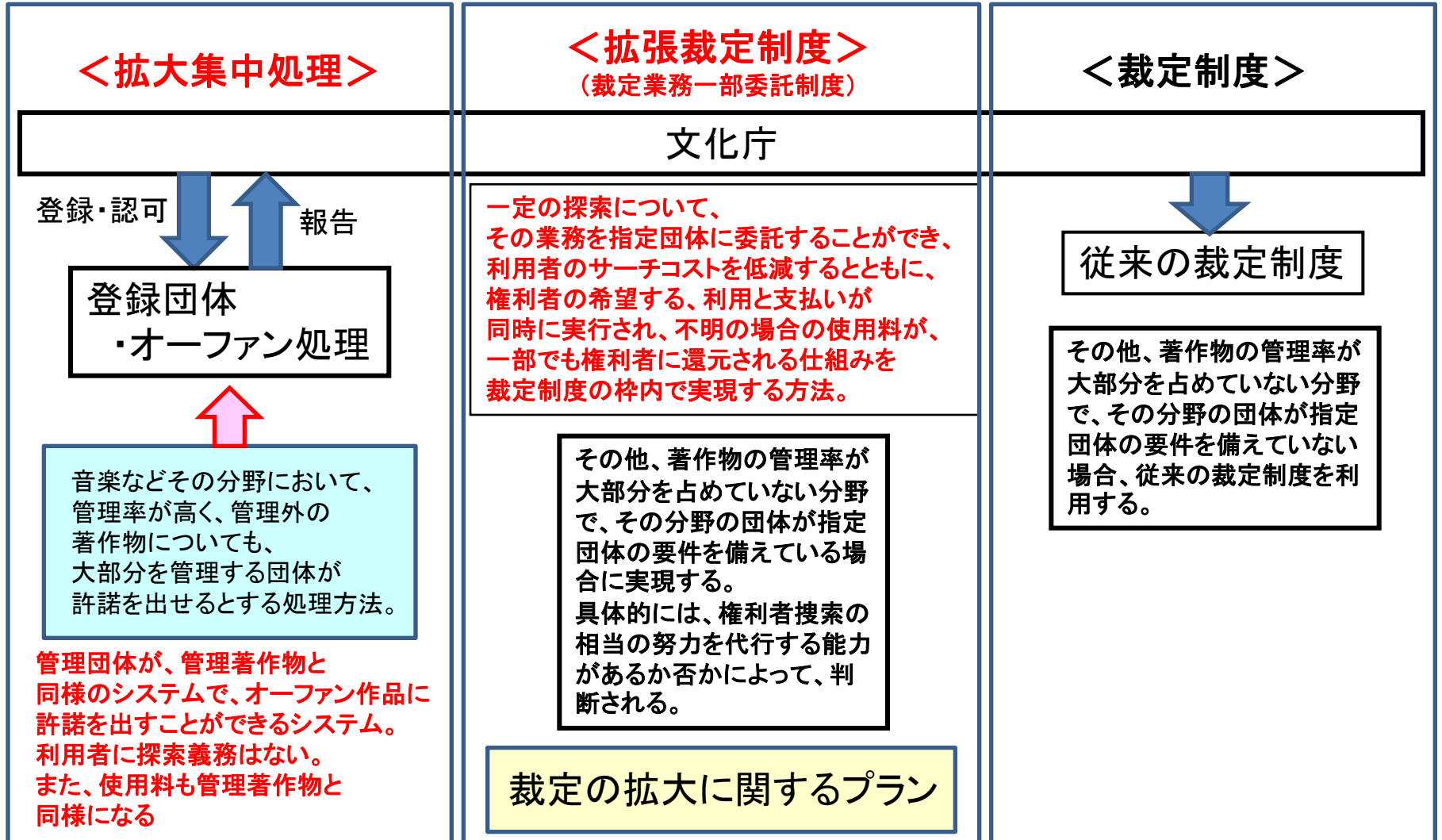


<アーカイブ活用にとって最大の問題点>

それはアーカイブに取っただけではなく、
今後のコンテンツ利用全般において、
どうしても解決しなければならない問題点だろう。

オーファンワークス。

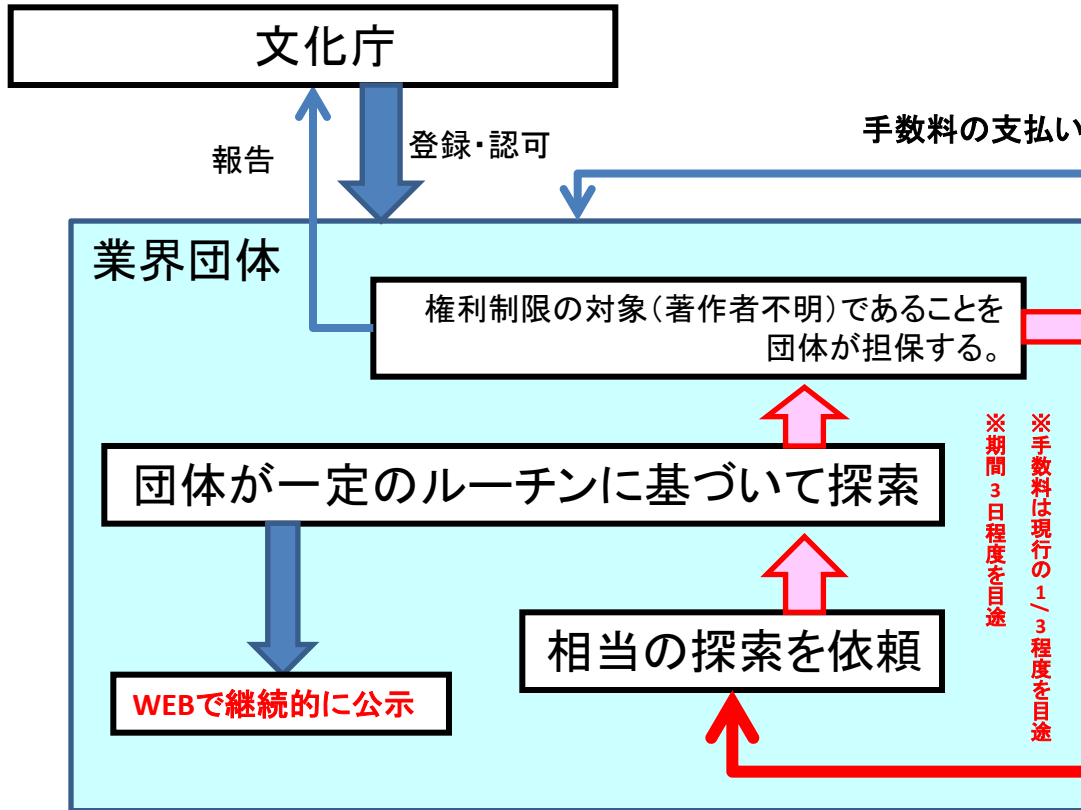
4. 制度のイメージ



4. 制度のイメージ

拡張裁定制度プラン

<相当の探索委託制度>

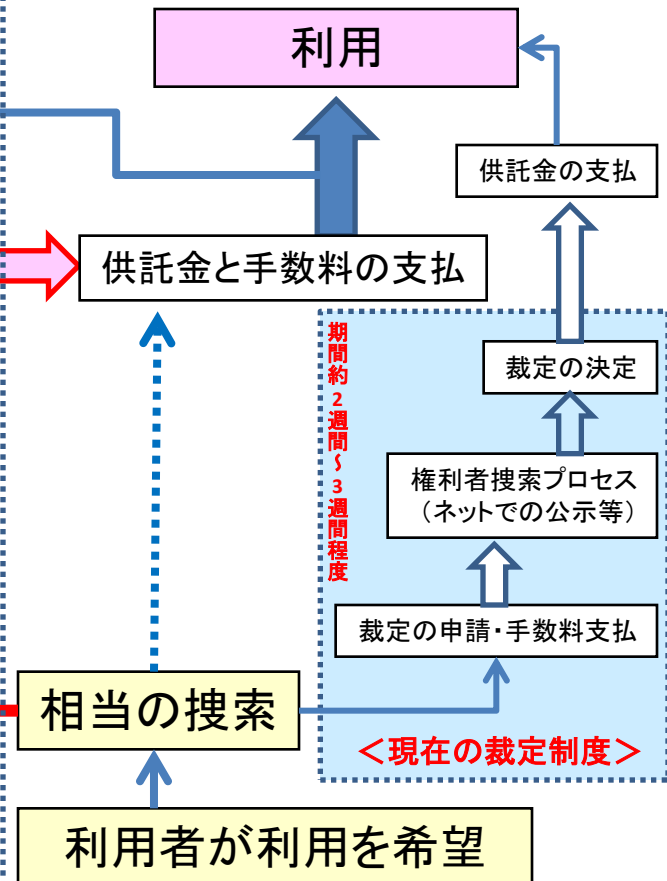


業務委託

各分野での利用を勧奨し、一定要件を満たした場合、探索業務の代行を委託する。

<裁定制度の一部業務代行>

著作者不明の著作物について、登録団体が相当の探索を、委託を受けて代行することができるシステム。

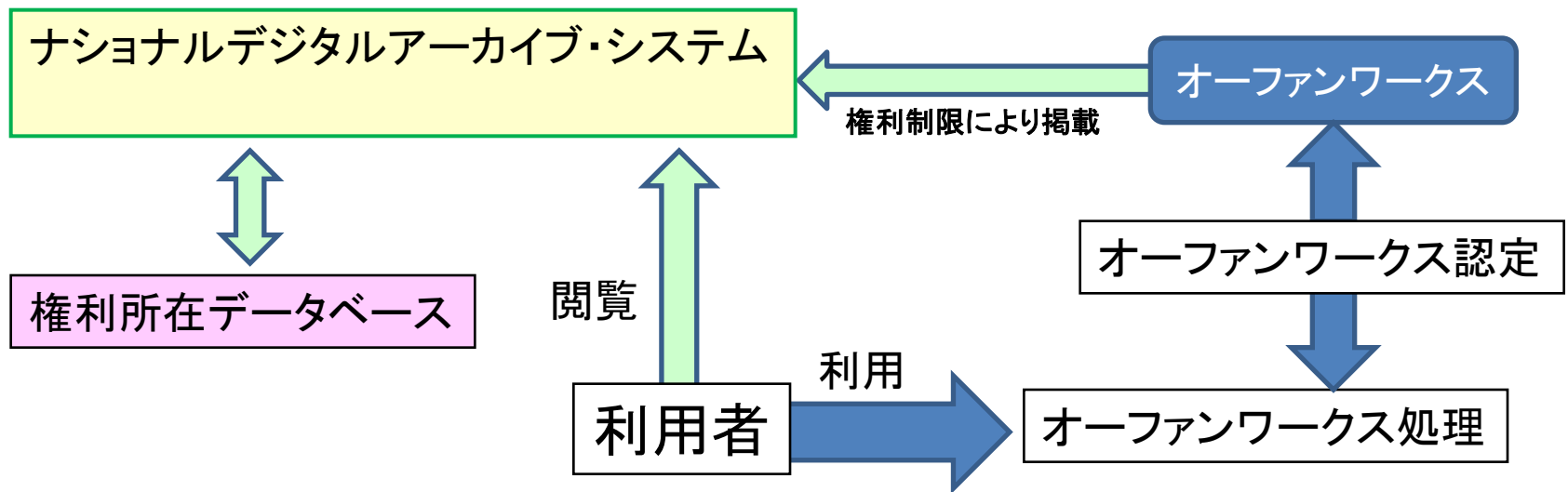


<現在の裁定制度>

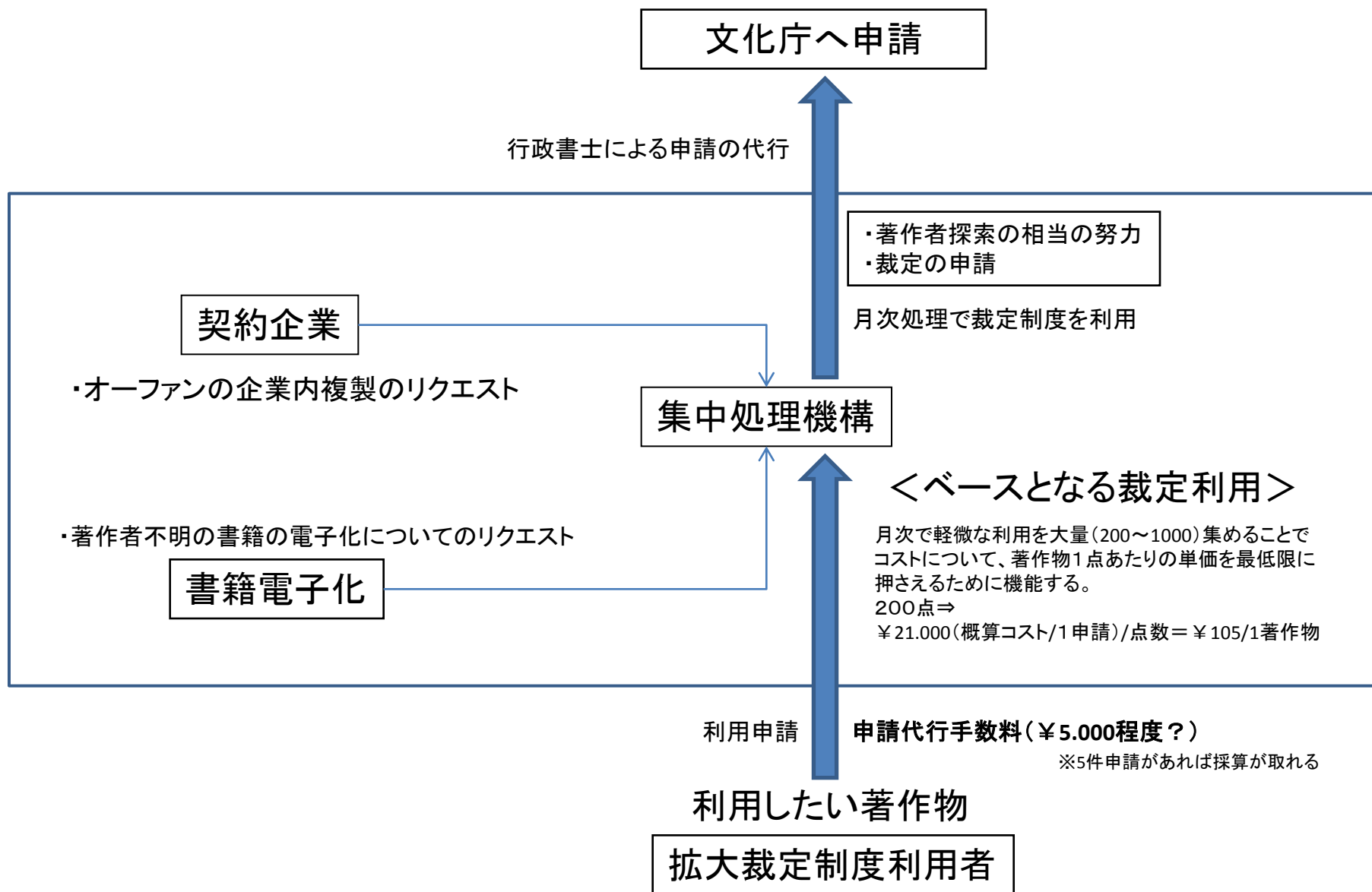
4. 制度のイメージ

オーファンワークスの利活用について

利用開始のトリガーは孤児作品認定によるアーカイブ化と公開

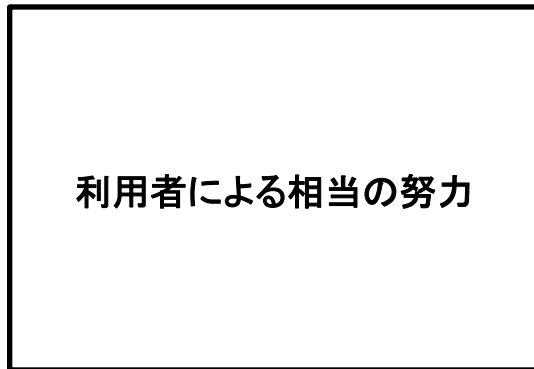
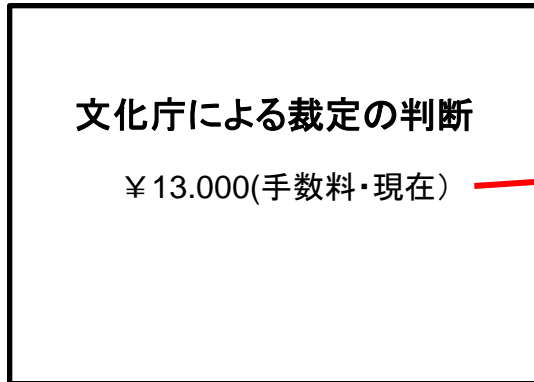


<拡張裁定制度実証実験実施イメージ>

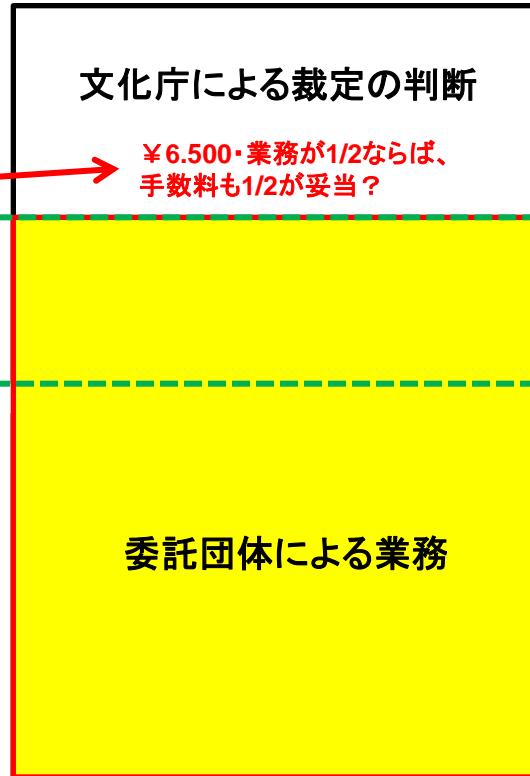


<制度変更のイメージ>

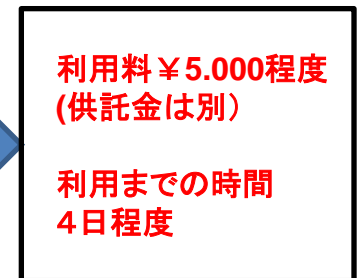
(現行裁定制度)



(拡張裁定制度)



目標



※このイメージでは、
利用が増えれば増えるほど著作物ごとの手数料は安くなる。
また、これにより、著作物のまとめなければならない数が減り、
より迅速な処理が可能となる。

より少ないベースとなる裁定利用で申請が可能となり、
(手数料が低いため、少ない数でも著作物ごとの単価が下がる)
裁定が出るまでの時間が短縮される。
ただし、現在は7日間のHPでの掲示が必要なため、最短で一週間。
これより短くするためには法改正が必要。

＜今後4年で実施すべき施策＞

アーカイブの中心となる組織を設置すること。
必要なのは、組織、予算、ポータルサイト。

ステップー1 ・ポータルサイトの設置(民間とも連携)
・現在あるデータベースの串刺し検索

ステップー2 ・コアとなるアーカイブの設置

ステップー3 ・商業利用まで含めた許諾システムの整備
・オリンピックでの活用を実現

(例)

文化省の設置

情報アーカイブ庁の設置